

Eco Life Guide

ライフプラン編



ライフプランを立ててますか？



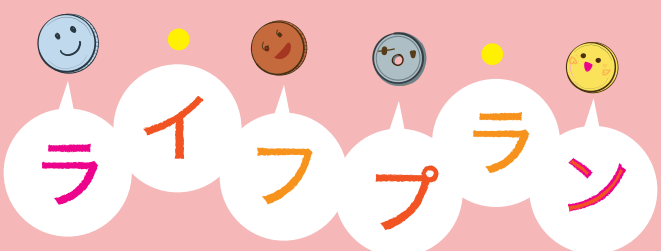
今、資産運用の必要性が叫ばれています

今、インターネットや雑誌・新聞などで、毎日のように「資産運用」について様々な情報が取り上げられています。お金を運用することが重要だと考える人が、今一段と増えているようです。

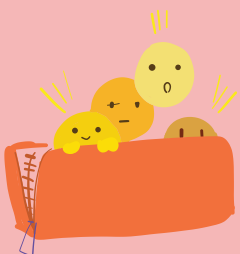
よく、日本では「お金の話を人前ではしない」「投資はギャンブルだ」などと言われます。そんな風にネガティブなイメージも少なくない「お金」ですが、何故今それを見つめ直す必要ができたのでしょうか。

それは、私たちを取り巻く環境が大きく変わってきているからです。勉強し、計画し、リスクをとる必要のある時代が来たからです。

具体的にはどのような環境になったのか。そして、資産運用とどのようなつきあっていけばいいのか。この章では、その内容について一緒に考えていきたいと思います。



そもそも、「お金」って何？



さて、本題に入る前に、少し歴史を振り返ってみましょう。

これから皆さんと一緒に考えていく「お金」は、人類最大の発明とも言われます。この「お金」は、そもそものようにして生まれたのでしょうか？

お金のなかった時代は、「物々交換」が主流でした。魚が欲しい人は、自分が採った同じ価値の木の実と交換とすることで、魚を手に入れたのです。ところが、「魚を持っているけど木の実が欲しい人」を探すのは大変ですし、これらのものは長く保管はできず、持ち運びにも不便でした。

そこで、持ち運びに便利で保管もしやすいもの、布や貝、砂金などが、交換の手段として使われるようになりました。これを、「物品貨幣」といいます。

そのうち、銅や金などを使った金属が、おもな交換手段として流通することになっていきます。これが、「金属貨幣」Ⅱ「お金」の始まりです。

お金があるおかげで、「モノの価値をはかること」「モノの価値を保存すること」「モノとモノの交換をスムーズにすること」ができるのです。

ちなみに、日本で最初の貨幣は、708年（和銅元年）につくられた「和同開珎」という説や、さらに古い7世紀後半につくられたとされる「富本銭」という説などがあります。私たちが使っている「お金」には、とても古い歴史があるんですね。

「お金」はその後金属だけでなく紙幣も加わり、時には権力の象徴にもなったり、マネーゲームとして世界全体を混乱させたりと、どんどん大きな存在となっていきました。

一度サイフの中にしまえばふとその大きさを忘れてしまいますが、現在「お金」は私たちの生活には欠かせないものとなっています。そして、「お金」は世界を動かす大きな力を持ったものであることを、忘れてはいけません。手のひらに収まるその無限の可能性について、私たちは心に留めておくといいのではないのでしょうか。

さて、お金の意味を再確認したところで、いよいよ次ページから本題に入っていきます。なぜ一人一人が資産運用を考える必要が出てきたのか、その原因となる環境を見ていきましょう。



銀行預金だけではお金を守れない?!



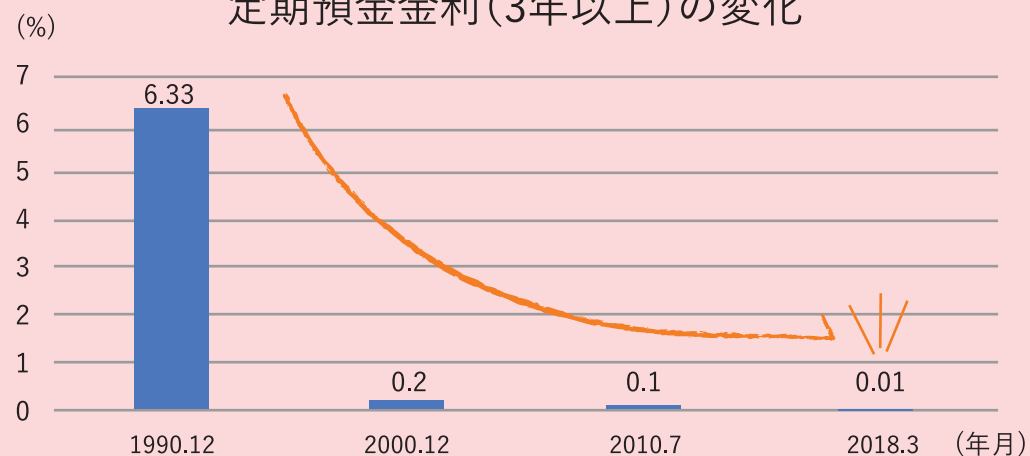
かつては年6%近くあった金利は、年1%を割り込む水準となり、下がる一方です。経済成長率(実質GDP)や平均所得も伸び悩んでいます。

2016年2月、日本で初めて、「マイナス金利政策」が始まりました。銀行は日本銀行にお金を預けると利息を取られるため、やむを得ず低い金利で企業や個人にお金を貸し出すようにしむけるためです。それに引つ張られる形で、預金の金利もこれまでにない低金利に。例えば普通預金の金利はおよそ0.001%まで下がりました。100万円を5年預けても、得られる利息はたった50円(税抜き)です。

「けど、とりあえず預金しておけば損はないでしょ?」と思われた方は、要注意です。

仮にこれから物価が上がって、今1万円で購入するものが5年後に1万500円になってしまつと、預金の利息はその値上りに追いつきませんので、実質目減りしてしまうことになります。(1万円を5年間普通預金に置いておくと、利息はほぼつかないからです。)また、社会保険料などが上がった場合も、同様のことが言えるかもしれません。もっと簡単な例でいうと、ATMの引き出し手数料は1回約100円〜200円程。手数料をかけてお金を引き出せば、実質目減りしてしまうのです。

定期預金金利(3年以上)の変化



独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構及び日本銀行ウェブサイトより作成

マネーエコ・コラム —72の法則—

これは、お金が2倍になる期間がおおよそ計算できる計算式です。具体的には、72という数字を金利で割ると、お金が2倍になる期間がわかるというものです。

$72 \div \text{金利} = \text{お金を2倍にするのに必要な期間}$ 、例えば、金利年率6%でお金を運用した場合、「 $72 \div 6 = 12$ 」となるのでお金が2倍になるのに必要な期間は約12年、3%で運用した場合には「 $72 \div 3 = 24$ 」となるので約24年となることになります。この法則を知っていれば、ある程度資産運用計画、資金調達計画にイメージをつけることができますね。

ちなみに、大手メガバンクの普通預金の金利「0.001%」では、何年でお金が増え2倍になるでしょう?なんと…72000年後です! 気が遠くなる数字ですね…。

長生きがリスク

と言われる悲しい時代…

人生100年時代。日本人の寿命は、世界でも最高水準を記録しています。そんな中で懸念されるのが、長期化する老後の経済的不安です。若い世代の方々も、漠然と将来の不安をお持ちの方は多いのではないのでしょうか。

日本の年金制度は、今現在働いている若い人が払い込んだお金を高齢者に支給する世代間扶養の仕組みで、「賦課方式」と言われています。

では、何人の現役世代(15〜64歳)で高齢者(65歳以上)1人を支えるのでしょうか? 1950年には1人の高齢者に対して12.1人で支えていました。しかし2015年には高齢者1人に対して現役世代2.3人になっています。今後、さらに高齢化が進み、2065年には、1人の高齢者に対して1.3人の現役世代という比率になると予想されています。(出典:『平成29年版高齢社会白書(全体版)』内閣府)

このままでは、賦課方式だけでは、安心して暮らすことができる老後の準備ができないと言われています。

これまでの公的年金のように自分以外の人に支えてもらうイメージから、「自分で自分の足元に強固な足場を作っていく」イメージの資産形成が重要になっていきます。

